

雄武町にて確認されたコウモリ 2 種

村山良子¹⁾・佐藤雅彦²⁾

¹⁾ 〒 098-5821 北海道枝幸郡枝幸町栄町 154 日本野鳥の会道北支部会員

²⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Two Bat Species Recorded from Oumu-cho, Northern Hokkaido

Yoshiko MURAYAMA¹⁾ and Masahiko SATO²⁾

¹⁾Do-hoku branch, Wild Bird Society of Japan, 154, Sakae-machi, Esashi, Hokkaido, 098-5821 Japan

²⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

Abstract. Two bat species, *Barbastella leucomelas* and *Murina ussuriensis*, were found in two small woodsheds separately at Sawaki area of Oumu-cho, northern Hokkaido. Among them, *M. ussuriensis* is the first record from this town. One female nycteribiid fly, *Basilia truncata endoi*, was also found from the eastern barbastelle.

北海道北部、オホーツク海に面する雄武町におけるコウモリ類の記録については、これまでヒメホオヒゲコウモリ、モモジロコウモリ、チチブコウモリの3種の報告がある(佐藤ほか, 2009)。隣接する枝幸町からは8種の報告があることから(佐藤・前田, 1999; 佐藤ほか, 2004)、さらに多くの種が同町には分布していることが予想される。しかし、2009年以降、筆者らの知る限り、雄武町における新たな報告はなく、コウモリ相の解明には未だ至っていない状況である。

筆者の一人である村山は、2017年の秋に雄武町内の住民から、薪小屋に入っていたコウモリを保護したとの連絡があり、確認のために現地に赴いたところ、2種のコウモリを確認することができた。そのうちの1種は同町からは初記録と思われるコテングコウモリであったので、その記録を以下に記す。なお、貴重な情報提供をいただいた川口宜満氏と薪小屋所有者の館山光司氏(共に雄武町)には、心より感謝申し上げる。

コウモリが入り込んでいたのは、いずれも雄武町

沢木地区の薪積小屋兼2台分の車庫として利用されている構造物であった。これらの小屋の周囲はおよそ6×5mあり、増築した波板等で簡易ながら屋根付き三方壁面の構造となっていた。内部は柱で三分割されているが、入口とともに開放され、薪は奥の壁と内部仕切りの柱にそって低く積まれていた。

この薪小屋の周辺約15haの殆どは、トドマツの人工林を背景に、開拓の頃からと思われるミズナラ、センノキ、イチイ、エゾヤマザクラの大木などが小屋の隣の庭先や自宅周辺、林地の中に数多く残されていた。また、牛舎跡や大きな2つの倉庫のほか、小さな枯れた沢もみられた。

川口氏からの連絡を受けた村山が現場を訪れたのは2017年10月19日と翌20日の二日間である。19日に訪れた際には既に住民が小屋から2個体のコウモリを一時保護していた状態であったため、外傷などの保護の必要性の確認をした上で、種同定と雌雄判別をした後、本来すぐさま同地にて放獣しなければならぬことお願いした上で、同地にて放獣した。これら2個体のコウモリは、幅広で比較的長

い耳介が顔面で接していることからチチブコウモリのオス1個体とメス1個体であり、放獣後の際、軍手にコウモリから移動したと思われるクモバエ科1個体が残されていたため液浸標本とし、後日同定を行ったところ *Basilia truncata endoi* のメスであることが判明した。19日のチチブコウモリは薪のそばに立てかけていた40～50cm²の板の内側の陰にいたものであるが、翌20日は同じ小屋の薪の中にさらに1個体のコウモリが潜っていた事から連絡を受け、再度村山は確認のために赴いた。このコウモリは薄茶色の体毛と、筒状の鼻が左右に突き出すなどの特徴を備えていることが認められたのでコテングコウモリと判断し、そのままの状態で保護することなく、現地を離れることとした。

コテングコウモリは北海道内に広く分布し、宗谷および留萌管内においては全市町村から分布記録が確認されていたものの、雄武町からはこれまで記録がなかった種である（佐藤ほか，2009）。本記録

により、既存の記録も含めると合計4種のコウモリの生息が雄武町から認められたことになるが、2008年に実施された音声を使った調査では、これら4種とは異なる音声が雄武町内にて確認されている（佐藤ほか，2009）。更なる調査や地元住民による確認事例などを丹念に調べることにより、あらたな種の生息が同町から得られる可能性も高く、今後も継続して情報収集に努めていきたい。

参考文献

- 佐藤雅彦・前田喜四雄，1999. 礼文と枝幸におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (18): 37-42.
- 佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄，2004. 歌登町のコウモリ類の分布. 利尻研究, (23): 33-43.
- 佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄・佐藤里恵・高橋守，2009. 雄武町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (28): 33-42.